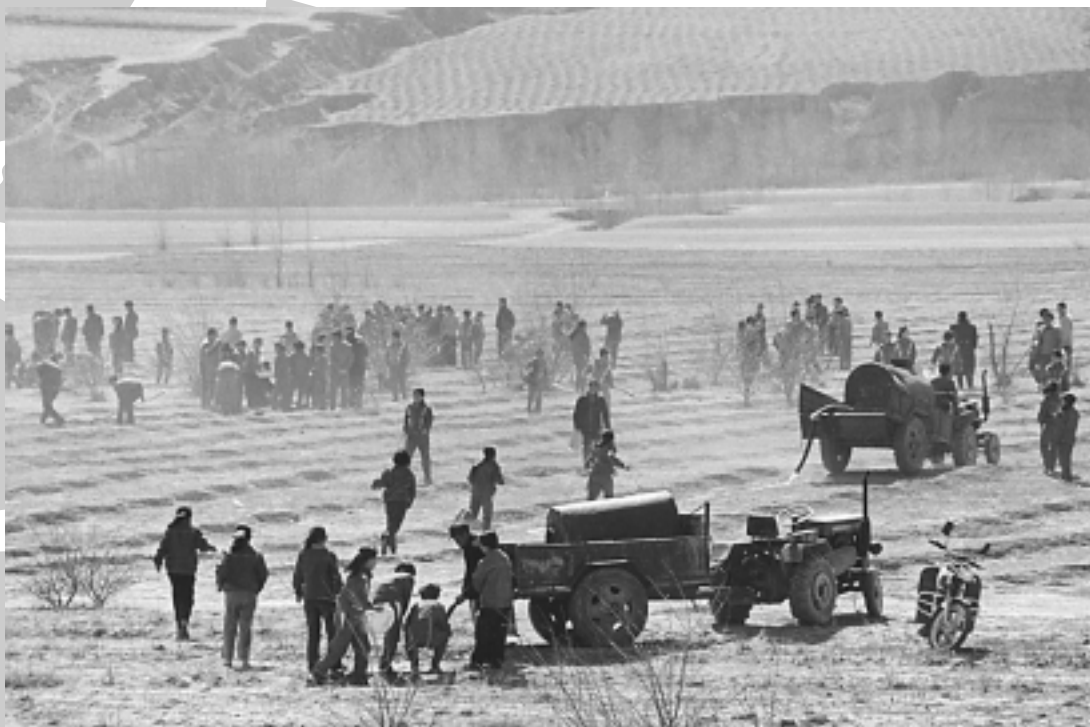


緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



大同はまもなく植樹の季節をむかえ、こんな光景があちこちでみられるようになる(撮影:橋本紘二)

Contents

第9回会員総会のお知らせ	P 2
関東ブランチから～シンポジウム・講演会報告	P 3
水の悩みも大国・中国	P 4

2003.3

90

緑の地球ネットワーク 第9回会員総会のお知らせ

世界水フォーラムが京都・大阪・滋賀で開催されています。世界の各地で、水不足あるいは過剰の問題が頻発し、21世紀は水争いの世紀ともいわれます。大同はまさに水不足地帯の真ん中。北京・天津をまもるためにも精力的に緑化がすすめられています。成果がでるにはまだまだ時間がかかるでしょう。

地球温暖化など、環境問題は深刻化するばかりです。沈みゆく祖国をあとに移住するしかないか決意した人たちが

もいます。大きな影響は遠く離れた場所のできごとで、なかなか実感できませんが、それは確実に私たちの生活にもしのびよってきています。「日本の冬を越せない」はずだった外来の生物が定着し、あるものは在来種をおびやかしています。私たちの生活環境も変化をはじめています。

そんななかで、さらなる環境の悪化を食いとめるために、私たちが日常生活の中でできること、しなければなら

ないことは何でしょうか。そんなことも考えてみてください。

【緑の地球ネットワーク

第9回会員総会】

日時：6月14日（土）13時30分～16時30分

記念講演：13時30分～15時10分

植田劭さん（京都精華大学教授）

会員総会：15時20分～16時30分

場所：大阪市立総合生涯学習センター第2研修室（大阪駅前第2ビル6階

TEL. 06-6345-5000 各線「梅田」駅、

JR「大阪」駅／東西線「北新地」駅）

総会終了後、懇親会を予定しています。

詳しくは次号でご案内します。

自然と親しむ会「種から育てる」報告

富宅 正樹（GEN会員）

野生の植物を種から育てる方法は、意外と知られていません。立花先生が独自に工夫されたノウハウを学ぼうと、30人が参加しました。

2月8日はあいにくの曇り空。もしかすると一雨さそうな雰囲気でした。理由もないのに私にとって「自然と親しむ会」は敷居の高いものだったのですが、今回は意を決し、重い腰をあげて参加することにしました。

眠い目をこすりながら、バスや電車を乗り継いで、京阪電車交野線の終点「私市」にたどりつきました。行き先は「大阪市立大学理学部附属植物園」、あの立花吉茂先生の指導つき。私がついたときにはすでに参加者がぼちぼち集まりだしていました。

園に入って、立花先生と合流。さっそく園内の散策にでかけました。樹木の説明を聞きながら歩きまわりますが、そこは立花先生、百科事典のよう

に名前や特徴だけではありません。育てたときの苦労話から、種の収集の話、さらには植物園にまつわる話までとびだしました。樹木も見るだけでなく、触れ、匂い、聴き、食べられる実を味わったり。五感を大活躍させて、楽しみました。

昼食後はいよいよ「種から育てる」です。立花先生の指導のもと、土をふるい、混ぜ、プランターに入れ、そこに種を蒔き、土をかぶせる。1つひとつの作業にポイントがあり、いちいち「なるほど」と納得しながらみんなで協働しました。蒔いた種は先生から提供されたものと参加者が持ちよったもの。蒔くための種ではなく、自然に落ちていた種です。山ではあたりまえに

おこっているはずのことなのに、驚きました。畝にも種を蒔き、藁をかぶせたりしている間におわりの時間がきてしまいました。

大の「雨男」の立花先生がいたにもかかわらず、雨が降らず楽しく作業ができました。

この種から芽がでて、樹木になっていくのが今から楽しみです。



GEN自然と親しむ会 武庫川渓谷でバーベQ

武田尾駅からJRの廃線跡を通過して水上勉の小説「櫻守」（新潮文庫）で知られる「桜の園」まで歩きます。トンネルもあり、手軽なハイキングコースです。さまざまな植物や鳥たちとの出会いがあることでしょう。そのあと、河原にもどってにぎやかにバーベQをつつきましょう。お気に入りの食材をお持ちください。また、バーベキューづくりに挑戦する予定です。

ハイキングをもっと楽しみたい方は、帰路「生瀬」駅まで廃線跡を歩くことができますが、その場合は長いトンネルがあるので懐中電灯が必要です。

日時：5月11日（日）10時～15時

場所：「桜の園」周辺

集合：JR福知山線「武田尾」駅前に10時

持ちもの：主食、飲みもの、バーベQの材料、皿などの食器。敷物。歩きやすい服装、靴でご参加ください。

参加費（保険料、炭代等ふくむ）：500円

問合せ・申込み：5月7日までにGEN事務所まで

雨天中止





関東ランチから

シンポジウム

「アジアにおける持続的発展とNGO活動」報告

上田 信 (GEN世話人、立教大学教授)

GENの活動って、世界に無数にあるNGO(非政府組織・民間公益団体)と比べてみて、どんな特色があるのかな。関東ランチは、昨年「緑の感謝祭」や「国際協力フェスティバル」に参加しています。日比谷公園では、隣のブースのNGOがちょっと気になります。そこで、1月18日に上記のタイトルを掲げて、小さなシンポジウムを企画してみました(主催は立教大学の東アジア地域環境問題研究所)。

タイトルのなかの「持続的発展」は、sustainable developmentの訳。日本の役所はこの英語に「持続可能な開発」という訳語をつけました。しかし、「持続」には今ある趨勢をそのまま続けるといったニュアンスがあり、視野として5年、せいぜい10年くらい先のことにしかおよんでいません。100年先、200年先に人類が生存できるのかといったもっと長期の展望が必要だという思いをこめ、今回は「持続的」という言葉をタイトルに掲げました。

最初にお話しいただいたのは、「国際炭焼き協会」の広若剛士さん。このNGOはインドネシア・ボルネオ島のポンティアナックで、炭焼き技術を軸にした農村開発を展開しています。お話は、窯出しされる備長炭の赤い光

をスライドで映しだしながらスタート。日本の炭焼きは、多様性や品質の点で、最高の技術をもっています。協力は、その技術を現地の人と一緒に活用しようという取り組みを展開しています。

現地のカウンターパートは、先住民ダヤック主体のNGO「ディアタマ」。油ヤシの殻に水がたまるとマラリア蚊の発生源になります。ヤシ殻を炭に焼いて活用しよう、という現地NGOの取り組みに、日本の炭焼き専門家が共鳴、協会の活動がはじまりました。

興味をひかれたのは、ソフトに焼き上げた炭をブタやニワトリなどに食べさせ、その排泄物を堆肥として土壌を改良して農業生産を向上させたということです。焼き畑農業から炭を活用した循環型農業へ、そんな取り組みが、いま根づいているとのこと。

また太平洋戦争のときポンティアナックで、日本軍が2万人以上の現地指導者層を虐殺する事件があったそうです。ワーキングツアーが現地に入るとき、必ずその事件を記念したレリーフの前に献花するとのことでした。GENが大同炭鉱の万人坑を訪れることを、私は思いおこしました。

二番手は、我らが遠田宏先生(GEN顧問)。現地での活動を中心に紹介し

ていただきました(詳しい内容は略)。

最後は岡室美恵子さん(笹川平和記念財団)。最近、共著で『中国のNPO』という本を出版され、中国のNGOについては日本で一番詳しい方です。

最初の話題は、社会主義の中国でのNGO立ちあげの難しさについて。中国では、1つの行政区域に1つの領域を活動内容とする民間団体は、1つしか認めないという原則があります。ですから、中国全体を対象とする環境保全を目的としたNGOは、「中華環境保護基金」の1つだけ。それ以外のNGOは、たとえば「自然之友」のように活動内容の異なる団体の下部組織になったり、「北京地球村」のように企業となったりして、はじめて登録が受理されるとのこと。複数のNGOが競いあうことで活動の水準が引き上げられるといった発想は中国にはなく、競争すると足のひっぱりあいをして資源が無駄、とお役人は考えてしまうようです。

そんな窮屈な中国でも、NGOの活動はさまざまに噴出しています。そのしたたかさには、脱帽。

シンポジウムを終えて、参加者は20名程度とこじんまりとはしていましたが、3名の講師をとおして、アジア草の根の活力を、私たちもわけていただいたように感じられました。

右するのだと実感しました。

最後に、このタイトルを見て、韻を踏んでいるんだと勘違いしたのはきつと私だけだと思います.....。

中国の水問題、認識をあらたに

岡田 満江 (高校教員)

2月22日(土)関東ランチでの報告会ということで高見さんによる「水の悩みも大国～中国」の発表がありました。2月の曇り空で寒い中にもかかわらず、40名近く参加があり、会場は椅子が足らなくなるほどの盛況でした。

いつも黄土高原便りで見聞きしていた水問題ですが、高見さんの生の声であらためて知識を深めた人も多かったと思います。中国全体の水資源量をみ

ると多少の余裕があるように感じましたが、農耕地に絶対量が足りない、作物の生育に必要なときに雨が降ってくれない、降れば降ったで洪水という状況。そして少ない水の中でも水質汚染が深刻化している状況から、水ひとつで中国のすべての環境問題を抱えていることがわかりました。また、世界的にもこれからは「水」が国の命運を左



水の悩みも大国・中国

高見 邦雄 (GEN事務局長)

干上がる大同

大同の1人あたり水資源量(年間)は、農村部を含めた全市で430m³、市区では221m³だと、地元のテレビが報道しました。国際人口行動の基準では1,700m³で水ストレス、1,000m³で欠水、500m³で嚴重欠水ですから、大同は嚴重欠水のレベルをずっと下回っています。水不足で有名なイスラエルでも289m³。

河川という河川で流れが消えています。北京の水源地の桑干河で、最後に流れをみたのは97年夏でした。毎年10回以上、この河を越えるのに、雨の直後を除いて、流れているのをみません。

ダムも干上がっています。市区100万人の水ガメである趙家窪ダムは、01年の夏、水量が減少し、水質が悪化したため、放水をストップしました。中小のダムは湖底をさらし、ウシやヒツジの放牧場になっています。

地下水位の低下も激しく、大同の主要部分は毎年2~3mも低下し、最近のテレビは2010年には涸渇する、と報道しました。山や丘陵では、井戸や湧き水が涸れる村が続出しており、29.7万人が飲み水に困ると地元紙は報道しました。

北京は砂上の楼閣?

上流の大同が乾いているのですから、下流の北京・天津も無事ではすみません。桑干河が流れ込む官庁ダムは、密

雲ダムとならんで2つしかない北京の水ガメですが、貯水量が減少し、水質が悪化したため、98年以降は上水道に使用できなくなりました。

北京・天津地区の地表水資源は、80年代は60億m³だったのに、90年代は50億m³に減っており、官庁ダムが使用できないままもっと減ったはずで、それにたいして地下水の利用量は70億m³以上。60%以上を地下水に頼っています。

天津の水不足は北京以上に深刻で、緊急措置として現在は黄河の水を引いています。取水口から天津まで500km以上あり、8億m³の水を取水して、届くのは3.5億m³だそうです。

北京の地下水位低下は激しく、レスター・ブラウンによると、99年は2.5m低下し、1965年くらいの低下は59mにたつるそうです。私は機会あるたびに中国の関係者に質問していますが、具体的な数字はえられないものの、その深刻さは誰もが認めます。にもかかわらず、北京は2008年のオリンピックにむけて、拡大に拡大をとげています。

食糧は水のかたまり

「母なる河」と呼ばれる黄河も70年代以降、河口まで水の届かない断流が頻発しました。上中流域での降水の減少、温暖化による蒸発量の増加、流域の工業化・都市化など、さまざまな原因が考えられますが、最大のものは

農業灌漑でしょう。中国では用水量の4分の3は農業と農村生活に使われています。

中国の1人あたり耕地面積は、50年前の半分以下で、都市化などでさらに減少中です。それでも局地的な現象を除けば、食糧不足はありません。1人勝ちといわれる現在の経済発展も、安価な食糧がささえる豊富な労働力によっています。

しかし、食糧は水のかたまりです。1tのコムギ、トウモロコシの生産には1,000tの水が必要だといわれています。食糧生産の成功の陰で、膨大な水が失われています。華北平原は全国の食糧の40%を生産していますが、ここでは毎年1~1.5mずつ地下水位が低下しているのです。

昨年、北京の政府関係者からきいたところでは、北京・天津地区、華北の一部から、農業の撤退を検討しているそうです。水をもとにした生産性は、農業は工業の70分の1といわれ、農業に勝ち目はありません。日本人の胃袋にも直結する大問題でしょう。

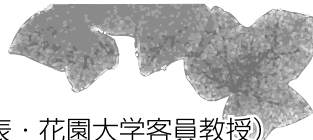
中国の水問題に関して、つぎの本に高見事務局長が1章を書いています。「水をめぐる人と自然」(嘉田由紀子編・有斐閣)

「水と私たちの暮らしを考える - 京都から世界へとつなく - 」(槌田劭 / 嘉田由紀子編集・昭和堂)



水が完全に干上がった桑干河(左)。恒山ダムも水がなくなり、左手奥は畑になっている(右)。双方とも2001年夏撮影

植物を育てる (21)



立花 吉茂 (GEN代表・花園大学客員教授)

クスノキ属植物の種子発芽

クスノキ属植物は日本に10種以上分布している。ここでは近畿地方に自生する10種についての実験結果を報告しよう。

常緑の種類

実験に用いた常緑の種類は、クスノキ、ヤブニッケイ、カゴノキ、イヌガシ、タブノキ、シロダモの6種類であった。これらは奈良の春日山にゆくと全ての種子が入手できる。しかし、種子の熟する時期は種類ごとに別々であるから、多くの種子を集めるのは大変な作業である。

落葉の種類

この小グループは本来は東北、北海道に分布するのであるが、近畿地方では500m以上の高い山に生えている。実験用にはおもに比良山系で採種したシロモジ、クロモジ、アオモジ、ダンコウバイの4種である。

発芽の特徴

クスノキ属植物の種子は多肉質の果肉につつまれたやや大きい種子で、乾燥すると発芽力を失う。また果肉のまま蒔いてもうまく発芽しない。果肉のある種子は、原則として動物に食べら

れ、排泄された種子が発芽するようになっている。したがって、発芽させるには十分に熟した果実を採取し、後熟させてから果肉を除き、直ちに蒔くか、乾燥しないように貯えてから蒔く必要がある。実験では洗った種子をビニール袋に入れ、全部の種類がそろった時点で蒔いた。

発芽のパターン

発芽の結果は図に示す。すなわち、タブノキだけは採取後すぐに発芽した

が、その他の種類は翌年の春にいっせいに発芽した。タブノキには休眠期間がなく、他の種類には休眠があると考え、冬も暖かい場所に蒔いたらヤブニッケイとイヌガシが1~3月に発芽した。落葉生の種類は冬に暖めると多くの種子は腐敗した。

以上のことから、クスノキ科の植物は、タブノキ型、常緑型、落葉型の3通りあるようにみえる。

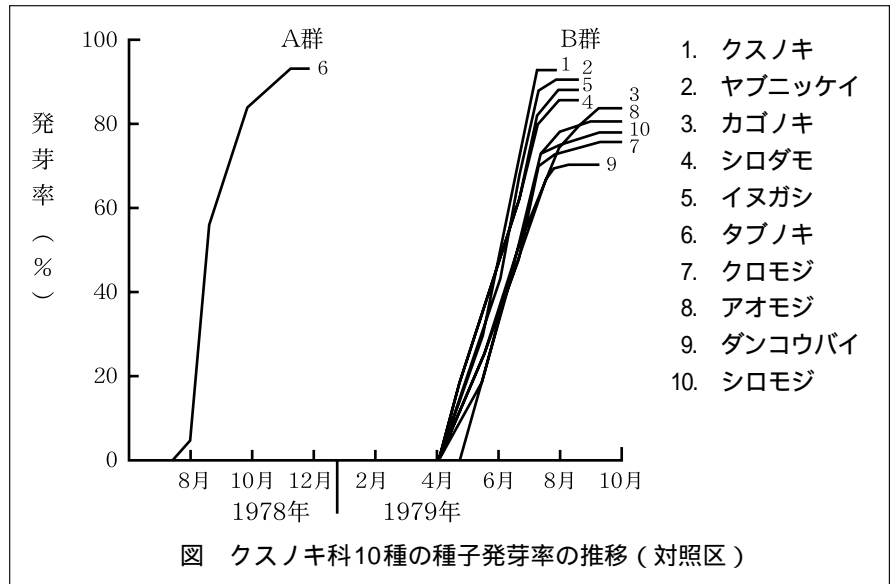


図 クスノキ科10種の種子発芽率の推移 (対照区)

いまますぐできるGENへの協力

会員になってください!

まだ会員になっていない方、ぜひ会員になってGENの活動を支えてください。また、環境問題や国際協力に関心をお持ちの知り合いに、会報の購読などをおすすめください。

カササギの森にご参加ください!

1ha分5万円を1口としてご協力いただいている大同県聚楽郷のカササギの森は実験林場として期待されています。みなさんのご協力をお願いします。

緑化基金、運営カンパもとむ

金額はいくらでもけっこうです。みなさんのお気持ちをわけていただける

と嬉しいです。

ビデオ『よみがえる森』ご購入を!

沙漠化、水不足など黄土高原の環境問題とGENの緑化協力を30分にまとめました。価格は5,000円、GEN会員価格は4,000円(送料270円別途)です。

絵はがき『中国・黄土高原』をご利用ください

橋本紘二さんの写真で制作しました。『春』『夏』『秋・冬』『緑化』の4種類、それぞれカラー8枚組、1セット(8枚)500円(送料別)です。

使用済みテレカを回収しています

使用済みテレカを換金して苗木代に

あてています。現在、1~2枚でマツ苗1本分になります。対象は折れ、汚れのないテレカのみです。その他のカード、使用済み切手は集めていません。

未使用のテレカも大歓迎です。

書き損じはがきを集めています

書き損じはがきを回収して、通信費にあてています。そのほか、古い未使用のはがき、切手なども歓迎です。

商品券などをお寄せください

ご家庭で眠っていて使うあてのない図書券、文具券、各種商品券がありましたらお送りいただけると嬉しいです。

ボランティア募集

ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに、GEN事務所から連絡します。

黄土高原史話 <12>

中国4000年か、5000年か

谷口 義介 (摂南大学教授)

取り立てて語るほどもなき人生ながら、1度だけ主役になったことが。

1990年6月9日(土) 所は熊大グラウンド。熊本大学教官チームと私の前任校との春の定期戦。わが方からはかつて藤間生大先生も出場されたこともある伝統の一戦ながら、ここ数回負け続け、しかも当日わが軍のエースが風邪でダウン、相手側からはピッチャーを貸そうかという申し出も。たまたま世話役をしていた私、責任を感じて急遽マウンドへ。もちろん初めての経験とて、内心ビクビク。ところが意外な好投で、2点失ったもののこちらは4点取り、そのまま最終回へ。敵側ベンチからは、悲鳴にちかいヤジがとぶ。

「イヨッ! 中国4000年の魔球!」

ところで、「中国4000年」という言い方が日本で定着したのは、「中華三昧」なる即席麵のキャッチ・コピー「中国4000年の味」からとか。重々しくドラが鳴って、うまさうなラーメンがでてくるCM。製作者によると、夏王朝の成立がB.C.2000年頃だから、中国の歴史を4000年と算定した由。このシリーズの<10>でも、「中国最古“幻の王朝”夏は実在、四千年前の城跡を発掘」とする新聞記事を紹介しました。

しかし、中国では一般に、もう1000

年さかのぼらせ、「黄帝5000年」というらしい。

前漢の大歴史家司馬遷は『史記』を「五帝本紀」から始めましたが、その最初の帝王がすなわち黄帝。このあと4人が続いて初めて夏王朝になるわけだから、少しサバを読んで、今では5000年としているのでしょうか。

ちなみに1911年、中華民国の臨時大統領に就任した孫文は、学者の入れ智恵で「黄帝紀元」というのを持ちだし、その4609年11月13日を中華民国元年元旦にする、と全国に通達。西暦では、1912年1月1日に当たります。この計算でゆくと、今年あたり黄帝4700年になるのかな。

「五帝本紀」によれば、土徳の瑞祥つまり黄竜と土の精が現れたので黄帝と号した、と。また「その崩ずるや橋山に葬る」とみえますが、そこは陝西省黄陵県の橋山に比定され、いわば黄土高原のド真ん中。黄帝を黄土の民=中華民族の始祖とする信仰も納得できます。

1935年、毛沢東は特使を黄帝陵に派遣して祭儀を挙行、自らが起草した祈祷文を代読させました。

「赫々たる始祖、わが華[中華]を肇め造りたもう」

黄帝陵と称するものは各地にいくつ



かありますが、橋山の陵園入口に立つ石碑には「全国第一批重要文物保護単位 黄帝陵」と大書。いわば国の公認を得ているわけで、毎年4月初旬の清明節には、内外から多くの人びとが押しかける由。

陵そのものは高さ4m、周囲40mの小さな円丘ですが、注目すべきは高さ200m、面積24haの橋山をビッシリおおむ6万本の松と柏(コノテガシワ)なかには樹齢1000年を越す柏が3000本も。民族の始祖の鎮守の森というわけで護りつづけてきたのでしょうか、あたかも黄一色の大海に浮かぶ緑の巨艦のようです。

中国5000年のシンボルカラーは黄色。しかし、これからは緑では?

2003 夏のワーキングツアー予告

今春はどういうわけか、「夏のツアーに行きます」という連絡をたくさんいただきました。概要が決まったので早速お知らせします。いままでは7月末からでしたが、大学の試験期間とかさなるため、8月からにしました。

日程：8月1日(金)～8日(金)

費用(変更になる場合があります)：一般=195,000円、学生=185,000円(国際航空運賃、中国国内での交通費/食費/宿泊費、ビザ

取得費用、GEN年会費ふくむ) 中国国際航空利用 関西/成田空港発着(GENスタッフは関空発着便のみ同行)

スケジュール(案。変更になる場合があります)

8月1日(金) 午後出発。夕刻北京着。バスで大同へ。大同泊

2日(土) 天鎮県へ。地球環境林で作業。

3日(日) 陽高県へ。万里の長城

を見学。農家でホームステイ。

4日(月) 小学校付属果樹園で作業。

5日(化) 大同県“カササギの森”で作業。国营苗圃見学。大同市へ。

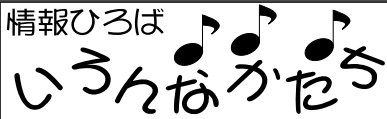
6日(水) 雲崗の石窟、万人坑見学。環境林センターで活動。歓送会。夜行列車で北京へ。車中泊

7日(木) 早朝、北京着。終日北京観光(自由行動可)、北京泊

8日(金) 朝、北京発。午後帰着

定員：30人

申込み締切り：6月24日(定員に達し次第締め切ります)



*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

世界水フォーラム関係のイベントが多いのでスペースを増やし、このページには水フォーラム・環境関連のイベントを掲載します。

和泉葛城山ブナ林天然記念物指定 80周年記念森林文化シンポジウム “ブナ林から考える21世紀”

北限のブナ林・北海道歌才、南限のブナ林・和泉葛城山、さらに広島比婆山からパネリストをむかえてのパネルディスカッションなど、日本のブナ林の現状と保全を考えます。

日時：3月21日（金・祝）13時～16時（12時30分開場）

場所：岸和田市立浪切ホール「小ホール」（岸和田市港緑町1-1 南海本線「岸和田」駅徒歩10分）

参加費：無料

定員：300名（先着順）

内容

基調講演「日本のブナ林の現状と保全のための取り組みについて」佐藤治雄氏（大阪府立大学名誉教授）

パネルディスカッション「各地域天然記念物ブナ林の現状と取り組み」

主催：岸和田北ロータリークラブ／（財）大阪みどりのトラスト協会／和泉葛城山保全活用対策協議会

問合せ・申込み：岸和田北ロータリークラブ（〒596-0054 岸和田市宮本町27-1 泉州ビル2F TEL. 0724-37-2151 FAX. 0724-37-1653 e-mail : knrc@sensyu.ne.jp）

3月21日（祝）

パネルディスカッション

「いかに地域で雨水利用を根づかせるか」13時～17時

記念講演 / アンドリュー・ロー氏（国際雨水資源化学会会長）

問題提起 / 村瀬誠氏（雨水利用を進める全国市民の会事務局長）

子ども雨水利用ワークショップ

「雨と遊ぼう」11時～16時30分、要申込み。

懇親会17時30分～19時30分、要申込み。

3月22日（土）

分科会

「雨水利用のグローバルネットワークを目指して」9時30分～12時、13時～15時30分、16時～18時

国際連携、環境教育、まちづくりなど5つの分科会がおこなわれます。

3月21日10時～16時30分、22日10時～16時

ポスターセッション

海外および国内NGO、自治体、学会、企業などが出展予定。

問合せ・申込み：京エコロジーセンター（TEL. 075-641-0911 FAX. 075-641-0912）

第3回世界水フォーラム記念講演会 水の惑星エコスフィア

日時：3月22日（土）14時～16時30分（開場13時30分）

場所：グランキューブ大阪（大阪国際会議場）1003会議室（大阪市北区中之島5-3-51）

講師：高木善之さん（ネットワーク『地球村』代表）

参加費：無料（要申込み）

主催・問合せ先：NPO法人ネットワーク『地球村』（TEL. 06-6311-0309 FAX. 06-6311-0321 e-mail : office@chikyumura.org URL http://www.chikyumura.org）

JACSES '03セミナー

環境税 地球・国・地方の切り札

日時：3月25日（火）18時～21時

場所：星陵会馆ホール（TEL. 03-3581-5650 千代田区永田町2-16-2地下鉄「永田町」駅6番出口徒歩3分

「国会議事堂前」駅5番出口徒歩5分）

会費：一般1,000円、学生500円

【プログラム】

第1部：報告「環境税：国際・国・地方それぞれのレベルから」諸富徹氏（京都大学経済学部助教授）

第2部：パネル討論「国際化・地方分権の時代の環境税とは」

主催・問合せ・申込み：「環境・持続社会」研究センター（TEL. 03-3447-9515 FAX. 03-3447-9383 e-mail : jacses@jacses.org URL http://www.jacses.org/）

いらない！ 遺伝子組み換え食品関西集会
ヴァンダナ・シヴァ講演

食の企業独占はゆるさない

日時：3月26日（水）14時～17時（開場13時30分）

場所：アバンティホール（TEL. 075-671-8188 JR・近鉄「京都」駅八条口徒歩5分 アバンティ9階）

参加費：500円

【プログラム】

「有機農業と遺伝子組み換え」西村和雄さん（京都大学農学部講師）
ヴァンダナ・シヴァさんの講演（通訳あり）

「愛知県農試・モンサント社の共同研究の中止と遺伝子組み換えイネ『祭り晴』の流れ」

問合せ：反GM関西集会実行委員会事務局（TEL. 0774-22-4634 e-mail : tukaiste@sirius.ocn.ne.jp URL http://www007.upp.so-net.ne.jp/Seeds-Network/gmsyukai1.html）

世界水フォーラム雨水利用in京都 世界の水危機の 切り札としての雨水

日程：3月21日（祝）～22日（土）

場所：京（みやこ）エコロジーセンター（京都市伏見区深草池の内町13京阪電車「藤森」駅徒歩5分）

入場無料。資料は有料、懇親会は実費、逐次通訳付

主催：第3回世界水フォーラム雨水利用実行委員会 / 京エコロジーセンター

【プログラム】



六甲奨学基金のための
第6回古本市

六甲奨学基金のための古本市がはじまります。毎年5名の兵庫県下のアジア人留・就学生への奨学金の支給と、留・就学生および家族などを対象にした日本語ボランティア教室の開催のために、ご家庭に眠っている不要な本を役立ててもらいませんか。

受付期間：3月31日まで（必着）

送付方法：直接持参または送料送り主負担で送付

【注意】

- ・読む人の立場になって、汚れ・破れのひどいものはご遠慮ください。
- ・辞書大歓迎。絵本、マンガ、洋書可。
- ・雑誌、教科書、参考書、コンピュータ解説書、百科事典などは不可。
- ・価格設定はおまかせください。お送りいただいた本はお返しできません。販売時に使用する手さげ紙袋も集めています。

【古本市ボランティア募集】

3月15日から5月15日までの古本市期間中のボランティアも募集。可能な日にち・時間を主催者まで郵便、ファックス、eメールでご連絡ください。

送付先・問合せ先：（財）神戸学生青年センター 古本市係（〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 TEL. 078-851-2760 FAX. 078-821-5878 URL <http://www.hyogo-iic.ne.jp/rokko/> e-mail : rokko@po.hyogo-iic.ne.jp）

第27回日中交流セミナー
京劇鑑賞入門

日時：4月5日（土）14時～16時30分

場所：大阪市立弁天町市民学習センター（TEL. 06-6577-1430 JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅すぐ）
参加費：1,000円

講師：張梅林さん（北京京劇院主役女優）

主催：関西日中交流懇談会（TEL./FAX. 0797-88-2240 e-mail : kansainc@ch.mbn.or.jp）

ブントンをどうぞ

高知の田中さんから、季節の柑橘のご案内です。

土佐文旦（低農薬、有機栽培）

A 5kg 3L 8～9玉 3,500円

B 5kg 2L 10玉前後 3,000円

C 5kg L 12玉〃 2,500円

D 5kg M 15玉〃 2,000円

（10kg箱も用意しております）

出荷：4月上旬まで

送料別途：関西630円、関東840円

ご注文は田中隆一さんまで

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町甲浦
TEL./FAX. 0887-29-2500

売り上げの一部をご寄付いただいているので、ご注文の際は「GENの紹介」とひとこと添えてください。

編集後記

97年から00年にかけてイスラエルとパレスチナの子どもたちに取材した映画「プロミス」を見ました。イスラエルの子どもたちはパレスチナ難民の境遇に全く無知・無関心ですが、取材を重ねるうちに、ある双子の兄弟がパレスチナ人の子どもに会いたいと言いだします。一方、「ユダヤ人は敵だ。話などできない」と言っていたパレスチナの子どもたちはみんな、難民キャンプを訪れた双子に会いにくるのです。

虐げられている側は、虐げている側に強い敵意をもっていても、やはり訴えたいのでしょうか。ところが、虐げている側に属するものは、虐げられている側に無関心で、逆襲の危険にあってはじめて、たたきつぶさなければならぬ対象として相手を認識する。その構造は、アメリカを中心に世界各地にみられるように思えます。

検問所をこえて結ばれた交流をつかの間の徒花に終わらせた、不毛な憎しみの連鎖は、今後も世界中で増殖をつづけていくのでしょうか。（東川）